

会 議 録

会 議 の 名 称	第 6 回二戸市立小・中学校通学区域調整委員会
開 催 日 時	令和 7 年 12 月 8 日（月）午後 6 時 30 分～ 7 時 10 分
開 催 場 所	二戸市役所 1 階会議室
公 開 又 は 非 公 開 の 別	公開
出 席 委 員	太田郁夫委員、佐藤順委員、槻館行男委員、新毛公生委員、 荒川優子委員、戸来陽子委員、浪岡幸子委員、小笠原猛委員、 小林聖委員、福原直樹委員、山舘誠委員、橋場重人委員、 中里敬委員、蛇口吉男委員、山本卓也委員、小林温委員、 筒井裕一委員、中野善文委員 (欠席：新毛真武委員、戸来守和委員、小林温委員)
説明のために 出席した職員	加藤教育長、立花教育部長、長畑教育企画課長、大平教育施設係長、 五日市学校教育主査
会 議 の 概 要	・ 事務局より資料説明 ・ 答申案について審議

発 言 者	内 容 (要 約)
部長	1 開会 18:30 第6回二戸市立小中学校通学区調整委員会を開催する。 委員3名欠席、定数に達していることから会議成立となる。
教育長	2 教育長あいさつ 開催スケジュールでは、会議は2月上旬頃までと記載されており、終盤に向かってきたところである。年内最後ではあるが、引き続き、審議し、まとめていただければありがたい。
会長	3 会長あいさつ 今日も意見を受け、改善点を話し合い、次回は最終確認して答申を提出するという段取りになる。今日も忌憚のないご意見よろしくお願いいたします。
会長	4 審議 今回は答申案について、大きく四つについて審議いただいた。一つ目は、許容範囲となる人数について、明確な基準として20人が定数と確認した。二つ目は、「速やかに」をもっとスピード感が感じられる言葉ということで、今回は迅速性を重視としています。三つ目は、拠点校名について付帯事項に福岡小学校と福岡中学校を記載しました。四つ目は、進学についての学区を考慮し、中学校の1校体制は複式学級の解消と同時期またはそれよりも先行して進めることを記載しました。 以上を踏まえて、皆様に答申案を事前に郵送で配付してます。本日はその案をもとに審議をお願いします。
課長	今日の資料は3部です。前回審議の概要として、とりまとめたものが資料1、委員内の共有資料として他に2部配布しています。 資料1の意見では、一つ目は20人とした許容範囲について、二つ目は、スピード感の表記について、三つめは拠点校となる学校名について、現状、または総合的にみて、福岡小、福岡中であろうということで、付帯事項に福岡小、福岡中という名を記載することを確認しました。四つ目は、統合について同じ地域で別な小中学校に分かれないよう、中学校の統合が先行することがわかるように記載することを確認しました。 このことを受け、2ページの通り修正しています。 1の許容範囲は、「小学校は2学級以上が望ましいと考えるが、現状における学校運営を考慮し、単学級も維持しつつ、1学級当たりの許容範囲を一定程度の集団形成ができる20人と定め、許容範囲を割り込む、または割り込むことが想定される場合は、解消に向けた議論を行う必要がある」としています。

	2について「速やかに」の部分で、「今後の出生数の減少や急激な情勢変化にも対応できる迅速性を重視した」としました。 3の拠点となる学校名の表記は、付帯事項に追加し、「集約する拠点校については、施設の規模や通学等に係る移動距離を考慮すると、小学校は福岡小学校、中学校は福岡中学校が適当と考える」としました。 4の中学校が先とする順序の表記は、これも付帯事項に追加し、「中学校の1校体制への移行については、同一家族の子どもの異なる学区への通学や複数回の統合経験を回避するため、小学校の複式学級の解消と統合時期またはそれ以前に先行して実施していただきたい」としました。以上が説明となります。 それでは修正点、文言のあり方も含め、皆さんからご意見を頂戴したい。
委員	スピード感のところは、すごくよく表現されていると思う。さらに、この急激な情勢の変化にもという表現の仕方がすごくよい。
会長	他にありますか。
委員	前回の会議で話題になった4点が、うまく表現され、委員が思いを込め言ったことが的確な言葉で表現されている。この答申案の文言、文面でいいと思う。
委員	2ページ目の(1)の①の中に複式学級は早い時期に解消しとある。同じく2ページ目の大きい2番、審議に当たっての一つ目に、10年、15年先という表現がある。早い時期に解消と言いつつも、10年先というところは少しギャップがあると思う。5年先10年先という表現の方が良いと思う。
会長	10年、15年という言葉は、この答申を受けて小中学校適正配置基本計画を作るときに入ってくると思う。こちらでは、統合ありきの話ではないと言いながら、統合の話のようなにはなっているが、そこで10、15という数字が出てきた。「迅速性」ということを考えれば、いかがなものか。
委員	示されたその答申案に私は賛成する。
委員	大変よい表現になっている。
委員	この通り進めていただければと思います。
委員	私も同じです。
委員	私も賛成します。

委員	10 年 15 年先について、今、小学校・中学校のことを話しているが、こども園でも既にこの現象は起きている。子どもが少なくなっている。
委員	最終的には小学校は福岡小、中学校は福岡中に行かなければならないということがわかりやすくなったと思う。あとは、迅速性、スピード感をもって、地域に説明ができる体制を整えてもらえれば良い。そういうことが散りばめられてると感じたので私は賛成です。
委員	自分も賛成です。ただ、10 年、15 年先は「そんなに先なの」という感覚になると思う。15 年先は出さず、10 年先だけで良いと思う。
委員	僕もこの案で賛成です。僕自身この調整委員会に入って、初めてこんなに子供たちが少なくなる現状を知ったので、非常にいい機会になった。
委員	自分は十分に詰めた内容でこれでいいと思う。
委員	データを見て、ここに参加してる人だけが焦っている。地域の方々に理解してもらえる表現が必要である。10 年先、15 年先に具体的にどのぐらいの人数になるか、どういう状況になるかのデータが入れば、理解してもらいやすい。地域の方にわかりやすい内容が加われば良いと思う。
委員	私も賛成です。よりわかりやすい説明があれば良い。中学校の合併が近い将来あることを、親の立場も酌んでいただきたい。
委員	この案で賛成です。地域の方々とか保護者の方々に分かりやすく。
委員	答申の案には賛成です。先ほどの 15 年というところが、すごい先に感じるので、そこだけがけが気になっている。
委員	内容は審議してきたとおりになっている。付帯事項に、統合の場合のスクールバス、通学距離、地域への説明が記載され、統合される側の意見は入っている。
委員	私もこの案に賛成です。先ほどから問題になっている 10 年、15 年先については、先を見据えた話と理解してもらえれば、迅速的な対応にも繋がると思う。
委員	私も 10 年、15 年ところは、未来を慎重に判断したことを伝えるためには、そのままの表現でよいと思う。 3 ページの学校間での競争意識という言葉に過敏に反応する人がいなければ

	ば良いと感じた。置き換える言葉が自分でも見つからない。
会長	この文言の背景には委員の思いがありましたがどうですか。
委員	ライバル心というイメージで話をした。中央小に負けたくない、石切所小に負けたくない、福岡小に負けたくない、浄法寺小に負けたくないという意識があった方がいいと思った。ライバル意識を日本語に訳すと競争意識となるので、そのようなニュアンスで話したものです。切磋琢磨と同じ意味なので、除いてよいと思う。
委員	過敏に反応するという考えはなかった。そういう考え方があるのであれば、競争意識を除いていいと思う。
会長	考慮していただければと思います。 10年、15年のところは、委員から未就学のところでも人数が少ないと感じているということですが。
委員	10年、15年先を見据え審議に入り、意見として「早急に」となったものである。審議にあたってのところは、そのままの表現でもいいと思う。
会長	今後の小・中学校の適正配置基本計画について、付帯事項もっと説明も丁寧に、詳しく入れたほうが良いかいかがですか。
委員	答申案は、あまり 具体的でもダメと思っている。この答申を受けて教育委員会が、今後の計画において必要な資料等が付随されていくものと思う。答申案とすればこの程度で収めた方がよいと思う。
委員	年次計画から細かく持ってくる出生数という具体的なものは、答申を受けてからと思います。
委員	私もこれでよいと思う。「学校統合と向き合うことになると地域への説明にあたっては」とあるように、今後、地域住民の理解や、地域の方々の意向を聞きながらと進めることになる。具体的な内容は、地域の方々の意向ではない。我々のところでは、ある程度出された統合での問題となる通学距離など、検討した内容は入っている。
会長	よろしいでしょうか。だいたい、皆さんも賛成いうところですよ。今後は、どうなりますか。

課長	今日だされた意見として、3ページの競争意識を削除ということでよいか。削除して、委員からの意見をもらう期限をつけて修正案を皆様にお送ります。 次回1月19日に答申の受け渡しをしたいと考えている。
会長	修正の意見が出たのは、切磋琢磨の部分だけでした。次回は1月19日（月）18時30分です。そこで最後の協議となる。本日はお疲れ様でした。